

平成22年度(第14回)

熊本市中学生による

子ども議会

とき 平成22年8月4日(水)午後1時30分

ところ 熊本市議会議場

議事次第

- 市議会議長あいさつ
- 子ども議会議長選出
- 開会
- 子ども議会副議長選出

議事日程

第一 市長施政方針演説

第二 一般質問

- 1 公共交通の利便性向上と道路の安全確保について 【第6班】
 - (1) 公共交通の利便性向上について
 - (2) 道路の安全確保について
- 2 高齢者への対応と子育て支援策について 【第3班】
 - (1) 高齢者へのサービスについて
 - (2) 子育て支援策について
- 3 地下水を将来に向けて守るための取り組みについて 【第4班】
- 4 農業の後継者不足と動植物園の活性化について 【第5班】
 - (1) 後継者不足への対策と新規就農者への支援について
 - (2) 入園者を増やすための取り組みについて

5 中学生の国際交流について 【第2班】

6 政令指定都市について 【第1班】

- 閉会
- 市議会副議長あいさつ

平成22年度（第14回）熊本市中学生による子ども議会

目的 子どもたちの市政に対する意見を聞くと共に、次代を担う子どもたちが熊本のくらしや未来について語り合い市民としての意識を高める。

主催 熊本市・熊本市議会・熊本市教育委員会

開始年度 平成9年度

参加者 熊本市内の中学生 50人（校長推薦）
内訳：熊本市立中学校42校から42人、熊本大学教育学部附属中学校から1人、私立中学校7校から7人

内容 議会常任委員会分野毎に6班（各班8～9人）を編成し、市政に対する要望・課題・疑問の焦点化を行い、改善案や提案事項を話し合い、質問を練り上げ発表する。

研修会①	7月23日（金）	9:30～16:30	議場見学、質問案練り上げ
研修会②	7月27日（火）	9:30～16:30	質問案完成、リハーサル
本会議当日	8月4日（水）	9:30～12:00	リハーサル
		13:30～16:00	本会議

参加者の感想

- 最初は、知らない人たちの中でうまくやっていけるか、自分の考えをしっかりと発言できるか、とても不安が大きかったのですが、1日目が終わった時には「楽しかった」と笑顔で家族に話をしました。誰にでもできる経験ではないので、貴重な経験ができて嬉しかったです。これを境に、自分でもっと発言をしていい方向に変われるといいなと思いました。
- 熊本市のことを今まで以上に知ることができました。同じ班の人とも仲良くなることができ、研修が終わる度に、早く次の研修に行きたいな、早くみんなに会いたいなと思っていました。
- 1回目の研修会に参加したときから、真剣に取り組むことができました。それは多分、他校の代表と会い、自分自身も学校の代表としてきたという自覚が生まれてきたからだと思います。自覚をもって子ども議会に参加し、悔いの残らないようにすることができ、とても満足しています。
- 今回のように市内の中学生が集まって議会を開く、という機会はなかなかないし、実際の議場で市長さんや各局長さんに質問をし、答弁をしていただけるということもなかなかできないので、貴重な体験ができたと思います。質問の文章を考えるのは難しかったけれど、みんなで考えて少しずつ分かりやすい文章になっていくのも嬉しかったです。自分たちの意見が反映され、これからの熊本市が成長していけたらいいなと思います。
- 合併して市になり、初めての参加でした。人と会話したりするのは苦手だったけど、班のみんなと仲良く、そして協力してできたことが、一番のがんばりだと思います。学んだことを、学校生活でも生かしていきたいです。
- 今回は、貴重な体験ができ、本当に嬉しく思いました。熊本について見つめ直すいい機会となりました。熊本はいろいろな問題もありますが、とても素晴らしい町だと思います。これからも熊本に住みたいなとますます思えてきました。この議会を支えてくださった方々に感謝したいです。
- 初めて他校の人たちと熊本市に対しての意見を交し合っ、他の人は熊本をどう思っているのかとか、他校との交流も深まって、熊本市の中学生が一つになって、絆が深まった感じがしました。素晴らしい体験をさせていただき、ありがとうございました。

平成22年度(第14回)熊本市中学生による子ども議会 質問・答弁骨子

質問項目	質問内容	答弁内容	担当局
6班 公共交通の 利便性向上 と道路の安 全確保につ いて	(1)公共交通の利便性向上について ・ICカードの導入について ・バスロケーションシステムを増やすことについて	ICカードの導入については、現在、バス事業者において具体的な検討が進められている。本市としても、ぜひ必要と認識していることから、市民にとって魅力のある、また使い勝手のよいものとなるよう、関係機関の調整役として、できるだけ早期に実現できるよう努力していきます。 バスロケーションシステムについては、平成17年3月から運用を開始しており、現在7箇所にバスの接近表示器を設置しています。 地域公共交通総合連携計画においては、バスロケーションの充実に項目を掲げており、現行のシステムよりも、携帯電話等にバスの位置情報を提供するシステムの方が、より広範囲に利便性の向上が図られるため、今後、その実現化に向けて検討していきます。	都市建設局 (市長答弁)
	(2)道路の安全確保について ・市民からの要望にすばやく対応できる体制づくりについて ・小中学生が安全に安心して通学ができる道路づくりについて	政令指定都市になったら市役所本庁や各土木センターに加え、最寄の区役所でも要望や相談ができる体制を整え、速やかに対応していくことが重要になることから、現在、土木業務の支援システム等の導入を含め、検討を行っています。 通学路については、できる限り歩道を設置することとしているが、道路幅が狭くて設置できない場所では、路肩のカラー舗装化等を行っています。 また、街灯には2種類あり、道路照明灯は、設置基準に基づき市で設置しており、防犯灯は、各自治会で設置されており、その一部を市が補助しています。歩道や道路照明灯については、今後も安心安全に通学できるよう道路の状況に応じ、さらなる整備を進めていきます。	都市建設局 (都市建設局長答 弁)
3班 高齢者への 対応と子育て 支援策につ いて	(1)高齢者へのサービスについて ・老人ホームや介護施設を増やすことについて ・全ての老人ホームでの介護保険の適用について	特別養護老人ホーム等ではほとんどの施設が満床の状態、多くの高齢者が入所を待たれている状況である。このような施設待機者の解消に向けて、3年ごとに定める介護保険事業計画の中で、特別養護老人ホーム等の計画的な整備を進めており、平成21年度からの3年間で特別養護老人ホーム4施設、認知症グループホーム23施設等の整備を予定しています。今後とも施設入所を待っておられる高齢者の方に対して適切な介護サービスが受けられるよう計画的な施設整備を進めていきたい。 現在、老人ホームの中で、適切な介護サービスを提供できる体制を確保しているなど、一定の基準を満たした施設について、介護保険の適用が可能な「特定施設入居者生活介護」という制度が設けられており、本市でもこの制度の活用を図っているところです。 今後ともこのような施設を増やし、高齢者の方々が介護サービスを受けやすい環境づくりに取り組んでいきます。	健康福祉局 (健康福祉局長答 弁)
	(2)子育て支援策について ・子どもを預けやすい制度をつくる。 ・保育所など預けやすい環境を整える。	子どもを預けやすい制度ですが、ファミリーサポートセンター事業は、子ども預けたい会員と預かりたい会員との相互援助活動で、両者の信頼関係を早く築くためにもアドバイザーの調整に基づき、両者が子どもの状況の説明を直接行っていただく仕組みとしています。 ほかに子どもを預かる制度として、病児・病後児保育にも取り組んでおり、また、子どもを一時的に預かる制度もありますので、今後もこれらの制度の充実に努めていきます。 保育所の環境整備については、保育所整備計画に基づき、保育サービスの不足する地域に保育所受入枠の拡大を図っており、さらに本年度、計画を前倒しで整備することにより、多くの保留児童の解消が期待できます。また、新たなニーズも出ていることから、平成23年度、さらに保育需要調査を行うこととしており、その結果を踏まえ、新しく保育所整備計画を策定し、子どもたちを預けやすい環境づくりに努めていきます。	子ども未来局 (子ども未来局長 答弁)
	・子育てしやすい環境づくりについて	子育て支援の施設やサービス、制度の充実にすることは重要なことだが、気兼ねなくそれらを利用できる環境づくりも大変重要と考える。したがって、育児休業制度等の利用促進について、熊本労働局、熊本県経営者協会などの関係機関の協力を得ながら、企業に啓発していきたい。 また、父親の子育てをさらに推進する必要があると考えており、平成21年度から「よかパパ宣言応援プロジェクト」を実施して、職場や地域など全ての人が父親の子育てについて理解し支援するよう、意識を高めていきたい。また、それにより、育児休業等の制度も気兼ねなく利用できる環境も整っていきます。	子ども未来局 (市長答弁)
4班 地下水を得 来に向けて 守るための 取り組みにつ いて	・来年からの節水の取り組みについて	市民一人一日当たりの水使用量を10%削減し、230リットルとすることを目標として節水市民運動を行ってきた。しかしながら、まだ目標に達していない状況で、引き続き市民総参加の下で、節水に取り組んでいくこととしている。現在、専門の先生や市民代表の方々で構成される、節水推進パートナーシップ会議の中で来年から、さらに効果的な取り組みを展開できるよう検討を行っています。	環境保全局 (環境保全局長答 弁)
	・節水意識の向上について	節水パンフレットを配布するという提案は、節水の必要性をPRする、効果的な手法ですので、現在転入時に配布されている「生活便利ブック」等の広報誌への掲載など今後検討していきます。 また、小中学校での節水学習に関する取り組みは、節水チャレンジ小学校の実施やくまもと「水」検定試験への参加を呼びかけています。そして、これまで進めてきた雨水貯留タンク設置も今年度全ての小中学校で完了しますので、学校で活用し、節水に努めてもらいたい。節水の意識付けについても、教育委員会と連携しながら、より多くの学校が取り組めるような方法を検討していきます。	環境保全局 (市長答弁)

平成22年度(第14回)熊本市中学生による子ども議会 質問・答弁骨子

	質問項目	質問内容	答弁内容	担当局
5班	農業の後継者不足と動物園の活性化について	(1)後継者不足への対策と新規就農者への支援について	新規就農者の育成確保は、長期的な対応が必要なため、本市相談窓口に加え、県や農協関係機関と新規就農者ネットワークを設置するなど支援体制の強化を図っている。また、担い手づくりの支援策としては、農業後継者クラブに対して、新しい技術や知識を習得する研修等の活動に助成するとともに新規加入者の激励会等を開催しています。本市農業の持続的発展を図る上では、将来の中心となる担い手として、若者の力が不可欠であるため、今後も関係機関と連携して後継者の育成・確保に努めていきたい。	経済振興局 (経済振興局長答弁)
		(2)入園者を増やすための取り組みについて ・楽しい雰囲気づくりについて ・掃除について ・知名度について ・水族館について	楽しい雰囲気づくりについては、現在10年計画で魅力的な動物園づくりを進めており、ガラスを用いた「サルたちの森」や檻や柵のない明るく開放的な「モンキーアイランド」を完成させました。また、来年3月には「チンパンジー舎」や新幹線さくらなどの遊具の整備も併せて進めています。掃除については、市民のボランティア活動や中学生の自主的な清掃活動が行われており、今後そのような輪を広げるような仕組みづくりを進めていきます。 知名度アップは、多くの方に動物園を知ってもらうために市政だより・新聞等の広報に更に力を入れ、ホームページもリニューアルし、わくわくするような楽しいものにしていきたい。 水族館の提案は、現在動物資料館において江津湖の魚等の展示を行っており、また「ホテルの里づくり」の取り組みも行っている。今後、再編整備計画の中で日本庭園等を利用し、江津湖の水生生物の展示を充実させていきたい。	経済振興局 (市長答弁)
2班	中学生の国際交流について	・中学生の国際交流について	中学生という感受性豊かな時期に、異なる歴史、文化、習慣に触れることは国際的な意識や感覚を磨く上で大変重要であると考えており、教育委員会としても様々な取り組みを行っている。学校においては、総合的な学習の時間に外国人から料理づくりやダンスを習うなど文化体験交流を行ったり、ALTが部活動と一緒に参加したりしている。 国際交流事業としては、平成4年度からドイツのハイデルベルグ市とスポーツを介した中学生の相互交流を行っており、これまで120名の中学生が友情を深めてきた。 提案の東アジアの学生との交流は、本年4月に大韓民国の蔚山市と友好都市協定を締結し、文化、観光、スポーツ等の分野で交流を行うこととなった。今後も国際理解のための学校教育や海外との交流事業の内容充実に努めていきます。	教育委員会 (教育長答弁)
		・今後の国際交流のあり方について	熊本市は、海外の5つの友好都市を中心に、文化、経済、教育、スポーツなど幅広い分野で交流を深めている。特に、青少年交流としては、友好都市との間で、高校生や大学生を対象としたホームステイによる交流事業などを実施している。 また、熊本で暮らす外国人に対して、イベントや暮らしの情報を多言語で紹介したり、困ったときの相談にのるなど暮らしやすい環境づくりを進めている。 更に、熊本市内の留学生に呼びかけて、熊本の豊かな自然や文化、また、まちの魅力を世界に発信するサポーターになってもらう事業にも取り組んでいる。	市民生活局 (市長答弁)
1班	政令指定都市について	・どのような政令指定都市を目指すのか	政令指定都市になっても、地域のつながりを大切に、より暮らしやすいまちになるように、区役所を地域のまちづくり活動の拠点と位置づけ、区役所にまちづくり担当部門を設置する。そして、町内自治会や老人クラブ、子ども会などの団体と協力し、お互いが助け合う地域社会の形成や地域の伝統・文化など、地域の個性や特性をいかしたまちづくりを進めていきたい。 熊本市には、熊本城や清らかな地下水、日本一の生産額を誇るナスやスイカなどの豊かな農産物など、全国に誇れるたくさんの資源がある。 また、九州の中央に位置し、九州内の都市に行くのも便利であるといった地理的な優位性もある。こうした熊本市固有の資源や特性を踏まえ、熊本市が目指す政令指定都市の姿を定めたビジョンを現在策定中であり、この実現に向けて市民の皆さんと一体となって取り組んでいきたい。 そして、九州や東アジアの交流拠点都市として、多くの人が集い、活気があって、また水や緑の豊かな自然の恵みの中で、心豊かな暮らしができる、そのような日本一暮らしやすい政令指定都市づくりを目指していきたい。	企画財政局 (市長答弁)